

里山列島、ニッポン
みんなの企画書



里山と生きる協会
SATOYAMA STYLE ASSOCIATION

ここは、大人もあそべる 里山列島、ニッポンです。

今、この国では、各地で里山を活かした
遊び場、学び場、そしてビジネスモデルが、次々と生まれています。
この現象は、単に「古き良き日本」に立ち戻っているのではなく、
現代の暮らしに「里山」をクリエイティブに取り入れ、
新たなスタイルを創造している人々が増えているのだと
私たちは認識しています。



里山の可能性は、
人々のアイデアが集まることで無限に広がっていきます。
自分たちと、自分たちの家族と、
ずっとずっと未来の子孫のために、
新しいライフスタイル、新しいワークスタイルを作る
アイデアを今から考えていきませんか。

里山と生きる協会

My dream is...

五感で学ぶ自然の体験教室



石坂 典子氏

石坂産業株式会社
代表取締役

1972年東京都生まれ。高校卒業後、米国の大学に短期留学。92年、父親が創業した石坂産業に入社。99年、地元・埼玉県所沢市周辺の農作物がダイオキシンで汚染されているとの報道を機に、石坂産業が批判の矢面に立たされたことに憤慨。「私が会社を変える」と父に直談判し、2002年社長就任。環境に配慮した屋内型プラントを建設するなどの改革を断行。現在2児の母。13年、同社は経済産業省の「おもてなし経営企業選」に選ばれる。

里山に来れば、何かが見つかる。 そんな期待が持てる気づきの場にしたい。

●50年先を見据えた生物多様性の里山づくり

私が社長に就任した当時、石坂産業は「地域に受け入れられている会社」ではありませんでした。本業（産業廃棄物処理）以外で何か地域のためにできることはないか…そう考えてたどり着いたのが、この土地の里山の再生だったんです。現在、石坂産業が管理する土地（東京ドーム約3.8個分）の8割を占める緑地では、人の手を介在しながら多様性のある里山づくりが展開されています。

●感動する里山づくりが学習の場になっていく

ここには、幼児から高校生まで年間で3,000人を超える子どもたちが環境学習に訪れます。彼らは五感で感じたものをどんどん吸収していきます。何が環境破壊につながるのか、何が自分を危険にさらすのか、体験を通じて学習していくんですね。

●機会と場を提供して里山と経済がつながるきっかけに

実は里山と経済がつながっていることに多くの人が気づいていません。私たちは機会と場を提供することで人々を里山に集め、里山から得られる気づきの中から新しい経済の流れを生み出したいと考えています。人と自然が触れ合うことで気づきが生まれ、やがてそれが商品開発などにもつながっていく…。都会で考えているは生まれないような独創的なアイデアも生まれるのではないのでしょうか。

DATA 埼玉県三芳町



電車で都心からわずか数十分で里山に触れられる三芳町。里山をテーマにしたイベントも多数行われている。

My dream is...

地球の翻訳者を育てる



奥田 政行氏

レストラン アル・ケッチャーノ
オーナーシェフ

山形市のイタリア料理店「アル・ケッチャーノ」オーナーシェフ。食の都庄内親善大使を務めるなど地産地消を代表する料理人。銀座の「やまがたサンタンドロ」のほか、東京スカイツリー、北海道、福島、三重、淡路島、広島宮島など日本各地でレストランをプロデュース。山形県産業賞、第一回辻静雄食文化賞、第一回農林水産料理マスターズなど多数受賞。著書に『地方再生のレシピ』『食べもの時鑑』『アル・ケッチャーノのバスタ』他多数。

料理というツールを使って里山と都会をつなぎ、人間を本来あるべき姿に戻す料理人を育てたい。

●都会の人が求めていたのは「里山」だった

鶴岡に地産地消のレストラン「アル・ケッチャーノ」を開業し、東京に進出。僕は一貫して、「里山の恵みを調味料なしでつないでいく料理」をテーマに独自の世界観を作り上げてきたのですが、実は都会の人が一番求めていたのがその「里山」だったんですね。今では、里山を学びに国内外から多くの人が鶴岡を訪れるようになり、鶴岡は山形県で一番観光客数が多い街になりました。

●里山があれば、人間を本来の姿に戻せる

都会は人間の感情で成り立つ社会です。都会だけで生活をしているとどうしても身も心も汚れてきます。しかし、里山がある人は、里山からエネルギーをもらえる。僕は里山を理解し活用すれば、人間を本来の姿に戻すことができると考えています。

●地球の翻訳者となる料理人を育てる

食材はミネラル以外はすべて生き物です。ですから僕は、地球上の生きとし生けるものをすべてつなげられるのは唯一料理人だと思っています。僕が料理というアイテムを使って地球の言っていることを翻訳してきたように、僕の考えに共感してくれる若者を「地球の翻訳者」になれる料理人に育て、自然界のことを人間界に伝えていきたいですね。

DATA 山形県鶴岡市



山形県の日本海沿岸（庄内地方）南部にある街。日本で唯一、ユネスコの食文化創造都市に認定されている。

My dream is...

再生から生まれる里山暮らしの拠点



馬場 未織氏

NPO法人南房総リパブリック
代表理事

1973年東京都生まれ。2007年より家族とともに「平日は東京で暮らし、週末は千葉県南房総市の里山で暮らす」という二拠点生活を開始。そうした暮らしの中で、里山での子育てや里山環境の保全・活用、都市農村交流などを考えるようになり、2011年に「南房総リパブリック」を設立し、2012年に法人化。現在は代表理事を務める。親と子が一緒になって里山で自然体験学習をする「里山学校」、南房総市の空き家調査などを手掛ける。

放置されていた廃校を再生し、 里山と地域の人々の新たな拠点をつくる。

●自然を味わい尽くす里山学校

新しい家族の暮らし方を作りたいと思って、2007年から週末を千葉県・南房総の里山で過ごす生活を送っています。最初に始めたのは、里山学校という自然教室。自然にクワイな農家の方の話にいきいきしながら耳を傾ける子どもを見て、親や図鑑じゃ教えられないことがあるなど気づいたのが里山学校を始めたきっかけでした。最初は知り合いだけで始めたのですが、人が人を呼び、これまでにのべ1000人以上の方が参加してくれています。

●DIYエコリノベワークショップで古民家を再生

南房総には古民家がたくさんあるのですが、住むには寒く、断熱工事もお金がかかる…。そうして手つかずになっていた古民家をできるだけ風情を残し、お金をかけずに、温かくしようと始めたのがDIYエコリノベワークショップでした。思いのほか反響が大きくて、みんな喜んで参加してくれるんですよ。

●廃校を住民の新しい拠点に

そんな活動をしているうちに、放置された廃校があるというお話をいただきました。取り壊す予定だったのですが、見てみると十分に再生の可能性がある建物。裏には里山もありますし、地域の新たな暮らしの拠点となる可能性があると考えられています。

DATA 千葉県南房総市



房総半島の最南端に位置し、三方を海に囲まれた自然の宝庫・南房総市。名産の房州びわはあまりにも有名。

My dream is...

土と太陽のヴィレッジ



中島 セイジ氏

株式会社十勝里山デザイン研究所
代表取締役 経営デザイナー

株式会社十勝里山デザイン研究所代表取締役。株式会社クォーターバックファウンダー。1955年北海道生まれ。1985年にクリエイティブとコンサルティングを行う株式会社クォーターバックを設立。経営デザイナーとして多くの企業を支援する。現在は、これまで培ってきた経営のノウハウや人的ネットワークを活かして株式会社十勝里山デザイン研究所を設立し、MEMURO ワインヴァレー構想を推進。主な著書に『儲けがないがいい(アチーブメント出版)』がある。

私がつくりたいのは人々の志。 十勝の可能性を詰め込んだ農業のショーケース。

●舞台は生まれ故郷の十勝・芽室町

高校卒業後、故郷を離れずずっと東京でビジネスに取り組んできた私の夢は、生まれ故郷への恩返しでした。創業した会社の社長職を退き、新たに里山をテーマとした会社を設立。現在は東京と十勝の二拠点生活を送っています。

●MEMURO ワインヴァレー構想

故郷に戻り、私が地元の方々にプレゼンテーションをしたのは、十勝・芽室町で世界に通用するワインを造ること。そしてそれを通じてこの土地に「挑戦の志」を残すことでした。地元のみなさんの積極的な参画のおかげで、予定を超えるスピードでプロジェクトが進行しています。2020年には、みんなでオリンピックを見ながらワインで乾杯ができるといいなと思っています。

●土と太陽のヴィレッジ

プロジェクトというのは面白いもので、進めていくうちに、当初の発想よりも大きな構想へ変化していくことがあります。ワインヴァレー構想から発展したのがこの“十勝の可能性を見せる農業のショーケース”「土と太陽のヴィレッジ」です。まだまだ多くの方の協力が必要ですが、実現させ、農業の可能性に人々が夢を見られる場所にしたいですね。

DATA 北海道十勝・芽室町



町名の由来はアイヌ語の「MEM・OHO」から。農業が非常に盛んで、スイートコーンの収穫量は日本一を誇る。

愛されています、 里山を活用した企画たち。



写真提供／ひがしかわ観光協会

里山列島ニッポンには、里山を活かして町のブランディングを行ったり、みんなが集える場所を作ったりしている自治体や企業がたくさんあります。ここでは、その中でも注目の事例をご紹介します。と思います。

写真の町・東川町



里山を活かし、写真の町として
ブランディングする
北海道が誇る『写真文化首都』。

北海道・東川町は、1985年に「写真の町」宣言をしました。それから30年にわたって、自然や文化そして人と人の出会いをテーマに、「写真つりの良い町づくり」を進めてきました。2014年、新たに「写真文化首都」を宣言し、写真文化の中心地として「世界中の写真、人々、そして笑顔に溢れる町づくり」に取り組んでいます。



銀の森

森の中にある食のヴィレッジで
人をしあわせにする
なつかしい未来と出会う場所。



「銀の森」は全部で8つの施設から成る1つのヴィレッジ。岐阜県恵那市の食材を活かした手作りスイーツや栗の和菓子、和惣菜・佃煮などを扱う、多種多様な店舗。昔ながらのかまどの活用、和を追求した空間の食事処など、そこにはしっかりこだわった演出があります。県外からも多くのお客様を迎え入れ、繁盛スポットとして注目されています。



天気の良い日は、テラスでゆっくりと過ごすことができる

里山は、日本全国に点在しています。
里山の可能性は、未来に無限大に広がっています。
これからの日本がなんだか楽しみになりますね。





里山と生きる協会

SATOYAMA STYLE ASSOCIATION

四季ある日本にとって、里山は、かけがえのない資産であり、
日本ならではの文化や感性を生み出した礎とも言えるものです。
こんな時代だからこそ、一度、原点に立ち戻って里山を守り・活かし、
そして、そこから恵みを受けながら生きることに意味があるのではないのでしょうか。

私たち「里山と生きる協会」は、その里山を通して人の輪ができあがり、
人々を力づけ、本当の意味で人々の生活が豊かになっていくことに期待します。

主な活動内容

- ・年次フォーラムの開催
- ・里山スタイル推進者の表彰
- ・里山スタイルの広報活動
- ・会報作成および配布
- ・会員同士の交流促進

里山と生きる協会は、
多くの方々の支援を受けて活動していきます。

石坂典子（石坂産業株式会社代表取締役）
小川寿晴（アッシュマネジメントコンサルティング代表パートナー）
奥田政行（レストラン アル・ケッチャーノオーナーシェフ）
小山政彦（株式会社風土代表取締役会長）
下村朱美（株式会社ミス・パリ代表取締役）
平将明（自民党衆議院議員）
中島セイジ（株式会社十勝里山デザイン研究所代表取締役）
馬場未織（NPO法人南房総リパブリック代表理事）
松岡市郎（北海道 東川町長）
藻谷浩介（株式会社日本総合研究所主席研究員）
森啓一（株式会社フォーカスシステムズ代表取締役）
山尾百合子（株式会社メイン代表取締役社長）
渡邊大作（株式会社銀の森コーポレーション代表取締役会長）
(50音順)

里山と生きる協会では、
支援してくれる仲間を募集しています。

現在、協会では企業や自治体などが加入する「特別会員」と個人の方が加入する「賛助会員」を募集しております。

くわしい条件や内容に関しては、お気軽に事務局までお問い合わせください。

里山と生きる協会 事務局
information@satoyama.live